

第2回 菊川市子ども・わかもの参画協議会議事録（報告書）

日時：7月21日（金）18:00～19:30

場所：プラザきくる3階301会議室

参加委員：15名（望月基希、小杉晋也、相津悠平、菅野真紀、山下千鶴、財津由記、磯崎心叶、成島千尋、カト
ーズプール紗奈、戸塚俊作、増田晴夏、服部晃範、松下麻衣子、石川公朗、岡田祐三）

事務局：菊川市市民協働センター（笠原活世、鈴木貫司）

アドバイザー：NPO法人わかもののみち 土肥潤也

1. 菊川市子ども・若者意識調査 中間報告
2. 高校生ワークショップ報告
3. 「菊川市子どもわかもの参画宣言」（素案）について
4. 「菊川市子どもわかもの参画宣言」素案検討の発表

1. 菊川市子ども・若者意識調査の中間報告

菊川市子ども・若者意識調査の中間報告の解説（事務局：笠原）

子ども若者参画協議会の開催において、菊川市子ども若者の意識調査に関する報告が行われました。中学生と高校生向けに実施されたアンケート結果をもとに、参加者に報告が行われました。

アンケートには約1,000人の生徒が回答し、外国人ルーツを持つ生徒のアンケート結果も約80名、含まれています。自己肯定感に関しては、約70%の生徒が自分のことが好きだと答えており、9割近くの生徒が努力すれば希望する職業に就けると考えています。一方で、自分は役に立たないと感じる生徒も多く、課題を抱える生徒も見られました。社会参加意欲については、約70%の生徒が日本の未来を良くするために行動しようと考えており、約55%が将来の政策決定に積極的に参加したいと思っていることがわかりました。また、ボランティアに興味を持つ生徒も多いという結果もありました。しかし、子どもの権利条約についての知名度が低いことが浮き彫りになりました。約5割の生徒が聞いたことがないと回答しています。最終的な結果では、約80%の生徒が自分の将来に明るい気分を持っているという希望に満ちた姿勢も見られました。

コメント（アドバイザー：土肥）

菊川市の中学生と高校生の社会参加意識が非常に高いことが浮かび上がっています。例えば、菊川市の参加によって社会の現象を変える可能性を示す項目で、全体の45%がそう思っていると回答し、全国データの34%を上回っていることが明らかになっています。また、ボランティア活動に対する興味も菊川市の方が全国より高く、60%に対して全国では40%という結果になっています。

さらに、菊川市が初めて自治体版で調査を行ったとのことで、他の自治体と比較するとどのような結果になるのかは不明ですが、現時点では非常に良い結果が得られていることが分かります。このような高い社会参加意識は、菊川市の若者たちの成熟した思考や社会的意識を反映しているように感じられます。地域に対する意欲的な参加姿勢が見られることは、地域社会にとって非常に素晴らしいことであり、菊川市の教育や地域活動において積極的に支援されるべきだと感じます。今後もこうした意識の向上を促進するための取り組みが続けられると、さらなる社会貢献が期待できるでしょう。

2. 高校生ワークショップ報告

ワークショップ結果報告（事務局：笠原）

ワークショップ実績実施報告では7月に行われたワークショップ「こどもや若者の声が届けるには？」というテーマで、「こども・若者の声が届くとどのような変化があるか」「どんな仕組みがあればあなたの意見が言いやすいか」についてグループディスカッションが行われ、様々な視点から提案がまとめられました。その中で特に印象的だったのは、生徒さんたちが今まで意見を言う場がなかったということです。その他には、参加者から以下のような意見が出ました。

- 場所さえあれば、自分たちの自由な意見が言える
- 若者向けの場所があればいいなという意見やこどもと大人が対等な立場であることが必要
- 意見を言う場には緊張感がなく、気軽に話せる場であってほしい
- 意見を言うには、SNSだったり、匿名性だったりするのも一つの手段ではないか

これらの結果を踏まえ、今後の子ども若者参画の取り組みに反映されることが期待されています。参加者の意見や感想を踏まえて、より良い環境づくりに向けて進展していくことが重要だと考えます。

コメント（アドバイザー：土肥）

全体としては非常に社会に対して関わりたいとか、参加したいという意欲のある中学生、高校生の若者たち子ども若者がから意見を聞く価値は非常に多いということが分かったということが一つと実際に、アンケート調査だけではなくて、ワークショップをやってみたところ、「もっと参加したい」、「意見を言う場を作ってほしい」という声を中学生高校生の中から出始めているっていうことは良かったのかなと思っています。

これは、菊川市で今までいろんな子ども若者の取り組みをされてきたことが、結果と成果として出ているんじゃないかなと思います。これをより広げていこうというのが、今回の「こども・わかもの参画宣言」を出していくということになるのではないかと考えます。

意識調査・ワークショップの実施報告を受けての質問・感想

質問者：アンケートの回答者で菊川市外の割合が62%となっていますが、この宣言は菊川市のこどもや若者の声を十分に反映しているのでしょうか？菊川市に住む人々の意見を優先的に取り入れずに、菊川市外の声だけを反映させるのは適切でしょうか？

笠原（事務局）：実際にアンケートを取った結果、菊川市外在住の回答者が半数以上を占めています。今回のアンケート回答には学校間のばらつきがあり、特に市外から通学する生徒が多い常葉大菊川高校からの回答数が多いこともあり、菊川市外在住の割合が増加しました。ただし、常葉菊川高校は地域に関わって活動している生徒が多数いるので、菊川市としての回答としてご理解いただきたいでもいいのではないかと思います。

鈴木（事務局）：現在、菊川まちづくり部や高校生まちづくりスクールに参加している大学生や高校生は菊川市に住んでいなくても地域に関わりたいというとても意欲が高いです。特に大学生は地元でもなく、菊川市に大学があるわけではないですが、菊川市のために何か貢献したいと考えてくれています。一方、アンケートで在学・在住のこどもや若者の意見を取り入れる方法には改善の余地があると考えています。今後は、その部分を検討していく必要があると思います。

参加者：アンケート結果の性別欄で「その他」が14人いることに注目しました。彼ら、彼女らが男女共同参画

や性の多様性にも関心を持ち、社会での多様な立場を改めて認識できました。14人という少ない数ではありますが、悩みを抱えている可能性があると考え、彼ら彼女らを含めた菊川市民としての対応策を検討したいと思っています。

土肥（アドバイザー）：全国的には13人に1人ぐらいって割合が言われていたりしますが、そう考えると本当にこの数が正しいのかどうかという議論や、その他で括られるのが嫌だっていう人も実はいたりします。こちらも表現の仕方とかも含めて考えていくべきだと思います。

3. 「菊川市子ども・わかもの参画宣言」（素案）について

菊川市子ども・わかもの参画宣言（素案）の説明

土肥（アドバイザー）：菊川市では、子どもや若者の参画を促進するための宣言の素案が提出され、最終的に市が正式な宣言を出す予定です。この宣言は市の方も協議会に参加して議論を進め、共同で作成していきます。この宣言は市民全員に影響を及ぼすものと予想されますので、細かい表現にも注意を払いながら作成していく必要があります。そこで、皆さんには宣言の素案をチェックしていただくことになります。特に、LGBTQ+への配慮など多様な意見を取り入れることを心掛けていきたいと考えています。みなさんの協力により、より包括的で意義深い宣言を完成させることができると考えています。

笠原（事務局）：まず、「すべての子ども・若者が自らの思いを表現することで」という部分ですが、さまざまな表現の仕方があるということを強調しました。また、子どもや若者を次世代未来の存在ではなく、共に今の社会をつくるパートナーとして捉えるべきだという部分も入れさせていただきました。

アンケートやワークショップでの意見から、「意見を伝えても変わらない」という諦めがあることにも言及し、それを伝えるために文中に反映させています。次に、菊川市は外国にルーツを持つ子ども・若者が多いことが特徴でもあるために、多様性が含まれることを前文に入れていきます。さらに、市内の高校との包括的な協定をきっかけにまちづくりが進んでいることを実感しており、これを文章に盛り込みました。理念の「地域の支えられ..」という部分では、地域で子ども・若者を支えていくということを大切にしようと考えました。

指針では、子ども若者参画協議会の継続や全市で子ども若者の声を聞く機会を確保することを提案しました。特にワークショップで生徒たちが自分の意見を伝える場の重要性を指摘し、市役所に専任の担当者を置くことを指針としました。

土肥（アドバイザー）：皆さん、グループワークの前にお話しします。現在の文章構成には改善の余地があると感じています。理念指針の具体性については、あまり詳細に書きすぎると将来的な変更が難しくなる恐れがあるため、方向性を示す程度のボヤッとした表現が適しているかもしれません。ただし、指針に具体的な要素を加えることも検討してください。特に、例えばLGBTQの話や外国にルーツを持つ子どもや若者に関する表現については、どこまで詳細に含めるべきか、慎重に考慮してください。

グループワークでは、各グループで意見を交換し、赤ペン先生のように添削しながら議論を進めてください。もしあらたな要素が必要だと感じた場合は、積極的に追加してください。皆さんの意見やアイデアをふんだんに取り入れ、より良い指針を協働でつくりあげていければと思います。

4. 「菊川市子どもわかもの参画宣言」素案検討の発表

前文・理念・指針に関する参加者からの質問・コメント

質問者： 子ども若者を平仮名と漢字で書いている理由は何ですか？この選択には何か特別な狙いがあるのでしょうか？

土肥（アドバイザー）： 子ども若者の表記については、過去には「こども」という漢字表記から始まり、民主党政権下では「子」の漢字にひらがなの「ども」と変わりました。そして今回の子ども家庭庁の発足に伴い、全てひらがなの「こども」となりました。この変遷には、子どもの定義や年齢制度の問題が関係しています。ひらがな表記にした理由は、年齢の定義を避けることで制度の狭間を避け、心身の発達段階による判断を行うためです。ただ、高校生や大学生が「こども」とされることに違和感を感じるという意見もあります。

宣言や協議会の文書では、ひらがなの「こども・わかもの」という表記を使っていますが、見せ方については議論が必要だと考えられます。高校生たちの意見も取り入れながら、最終的には小学生など幅広い年齢層の子どもたちに適した表現を検討しています。国の方では「こども版」と「大人版」といった二つのバージョンを出すことも検討されているようです。

ひらがな表記にすることで、キャッチーに見える可愛らしさがありますが、子ども若者の表現にはさまざまな視点が存在していることがわかります。これからも議論を重ね、適切な表現を見つけるために高校生や小学生など幅広い世代の意見を取り入れていくことが重要です。

質問者： 参画と意見反映の違いや使い分けについて、どのような議論があるのでしょうか？参画と参加の違いが気になります。「参画は企画や段階から入り込んでいくイメージで、参加で募集があれば参加する感じです。ただ、この文書ではこどもたちの社会参加を促す場面でどちらの言葉を使うか悩んでいます。国レベルでの議論や意見を参考にし、意見をいただくと助かります。

土肥（アドバイザー）： 社会参画や政治参画といった捉え方があるため、一概に言葉が定まっています。国では参画および意見反映という表現を使っています。意見反映だけではこどもたちが客体的になってしまうので、もっと主体的に社会をつくる立場として参画および意見反映という言葉を使っています。菊川市の場合も、まちづくり・参画というように区切って考えることが必要かもしれないです。

質問者： 全市を上げてという部分があるが、菊川市、本市、全市を統一した方がいいと思います

笠原（事務局）： 本市だと一方的なイメージになってしまうのかなという中で、こども若者を菊川市の一部でなく、全てという意味「全市を挙げて」という言葉をかけさせていただいたんですが、その辺もぜひ検討いただければと思います。

土肥（アドバイザー）： 一応、市役所が最後は宣言するのですが、こういう宣言というのは主語を市民にするのか行政にするのかという問題があります。その中に行政は必ず含まれているのですが、市民も一緒にやっというよって宣言にするのか、行政だけがするのかっていうのも言い方によって変わるので市役所全部上げてというような表現にすると少し難しい部分があります。

笠原（事務局）： 理念を作成して行く中で考えたことのひとつに、短く端的に表現するというのがあります。市が宣言するという視点だけですがもう少し難しい言葉を使うというのもあったのですが、できるだけ中学生と

か高校生にもわかるような言葉を使いたいというところがありました。全市にというところにつながってくると思いますが、この宣言を市にはしてもらいますが、市民として皆さんも一緒になってほしいという思いがあり少し短めな言葉で分かりやすく比較的理解しやすい言葉にさせていただきました。

土肥（アドバイザー）：話せばいろんなことが出てきて、多分全部議論し切れるかみたいなところはあると思うのですが、グループごとに共有していただいて、こんな論点があるんじゃないかっていうことを共有頂ければと思います。グループごとに話す方がより深く話せると思ってグループにしているのですが、後から共有いただく時間をもちます。そこだけだと多分 全部聞ききれないところもあるのではないかなと思うので、どなたかグループの意見をまとめて、事務局の方にそれを見せていただく形で最後共有していただければ、反映できるかなと思います。

グループでのディスカッション後の参加者からのコメント

「意見を言っても変わらない」「社会の理解が得られない」の表現の具体性について

前文からのところで2段落目のそうした中で「意見を言っても変わらない」「社会の理解が得られない」という表現があるって一文がありますけれども、ここのところがちょっと具体性があった方がいいんじゃないか？要は、例えば意見を言っても変わらないというのは誰に意見言っているのかをより明確にする必要があると思います。その中でも保護者の許可の問題が学校や地域で、一人歩きしてしまっているように感じます。

「あきらめ」という表現について

もう少し具体的に言うと、こちら「あきらめ」っていう用語があるんですけども、あきらめって言った場合、例えば意見を言っても変わらないとか、社会に変えられないというのは試してみるのが前提になるのかなと思います。そのこども若者が果たしてじゃあ全員、言っているのか？そうなった時に「あきらめ」っていう言葉が適切なのかな？ちょっと違う表現とかあるのかなというところが構成や章を検討した方が良いのかなという話がありました。

市の表現の統一

それから、漢字の部分とかでは、例えば本市とか菊川市にするとか、そういうのが統一した方が良いつて話になりました。

前文のスリム化

同じような表現があり、もう少しスリム化した方が、市民の人が見たときに見やすいのではないかという意見が出ました。

具体性を入れない方がいい

具体性はあまりないという話で、例えば指針のところ、子ども若者校舎協議会 3割以上の3割という根拠はないのか。3割は適切なのか。あとフォーラムの年1回開催する年1回って言れると例えば、ここ数年の新型コロナウイルスの関係であれば、年一回開けない可能性もあるため、年一回という表記は入れなくてもいいのではないかという話がありました。

窓口の設置について、活動の場をつくることも含める

この宣言がどこまで菊川市と地域のことで本気でやれるかというところですが、指針の最後に菊川市役所の中に子ども若者参画の窓口となる担当を置くことがあります。担当を置くのはいいが、窓口で子どもや若者が行った時に、その話を聞いて、反映させるとしても、その時に子ども若者がどこまで主体性を持って自分の意見を伝え、それが伝わったのかなという満足度がわからないと思う。例えば、学校でいうと生徒が学校を変えたいというのが生徒会。まちを変えたいよってという子が集まるなど活動する場を開く窓口となってもいいのではないかと思います。

対象をどこまでにするか。関係交流人口を増やす

菊川市の取り組みなのですが、菊川市民限定にすると、何十年も経つと閉鎖的になり菊川市の発展に結びつかなくなります。そのため、交流人口を増やすことが大事であると思います。市外に有益な情報が多くあるため、菊川市外の若者とか子どもが参画できるようにという意味で交流人口を増やすなどの文面がこの中に取り込められればいいと思います。

「若者」の表記を「わかもの」に統一する

「若者」という言葉が平仮名になっているため、統一したらいいのではないかと思います。

まちづくりという言葉の別の表現にする

「まちづくりを推進して」という表現があるが、この後の文章もまちづくりを推進していくという部分が薄いので、違う表現を探してみても良いのではという意見がありました。

宣言する主体は誰か？

宣言するのは市なのか？それとも市民なのか？菊川に関わりのある人なのか？

市民であるなら、この調査の部分の意見にあるように、菊川市の市民の方に確認してもらい、市民の方々自身が宣言し、理解しやすいようなものであることが重要であると思います。

菊川市に関係のあるすべての人たちに見ていただき、聞いていただけるのであれば、もっと内容を平易して営業所や、学校で置いていただいて、目にする機会を増やすことが必要であるという意見が出ました。

日本語表現の修正

「体験が積み上がっていくことで・・・」という表現は「経験を積む」に変えたほうがいい

「人と人との繋がりが薄くなっています。」という表現の後半の人は「ひと」とひらがなに

参画と協働宣言にする

あとは私の個人的な意見ですけど、学校は市や協働センターと協働させてもらっているのだから、「参画と協働」という言葉があると参画だけだと、そこで終わってしまうので、実行遂行して一緒に達成まですることを考えた協働という言葉を入れていただくと一緒にゴールするっていうのができるのかなと思うという意見が出ました。

参画宣言の目的は、菊川市のため？全国に広めるため？

まずそもそも菊川市この若者参画宣言が菊川市の発展のためだけのものなのか、それとも全国に子ども若者参画をもっと広げていくためのものなのかというコンテンツの部分からどちらなのかという意見が出ました。

前文に子ども・若者の主体性という表現がない

前文において、子どもの主体性という言葉が全く見当たらないような感じがする。子どもの声を聴くっていうところにすごく重きを置いているような感じで、文章の感じが子ども意見を聞いて反映させるのは大人っていう部分が強いかなど感じました。高校生などの子どもが意見を発して、変えていく活動についてもっと言及してほしいという意見が出ました。

「自分のまち」という表現は誰を対象にするかによって変わってしまう

理念において「菊川市を自分のまちと思い…」っていう文章がありますが、その言葉が菊川市民にとっては自分が住んでいる市であり、もっと身近なまちだと思えようみたいな感じなのか。菊川市に関わる人にとっては、菊川を第2の故郷として、菊川に対する思いをもっと持ってほしいなあっていう言葉の意味なのか、それを受け取る人の立場によっては変わってしまうことがあったのかなとすごく思いました。

指針が行政っぽい表現で分かりにくい

指針でこうして行きましようっていう言葉がすごい市役所っぽい表現になっているという意見があり、むしろ指針はいらないのではないかという意見もありました。

大人目線の表現になっている 子ども・若者の声を聴く機会→子どもが発言する機会

やっぱりそのやっぱ前文の中でも「子ども・若者の声を聴く機会の確保」と書いてあって、逆に「子どもが発言する機会の確保」と明確に書いていないので、やっぱり大人が聞いてあげるっていう目線がやっぱ強いのかなということを感じたという意見が出ました。。

子ども・若者の表記にする

「子ども」「若者」という漢字については、若者というのは漢字にして子どもを平仮名にすると、やっぱり高校生や中学生はちょっと大人に近づいていいかなという意見が出ました。

社会参加より参画という表現が適切では

参画と参加社会参加についてはやっぱり参画の方が他人事ではなく、自分が参画しているっていう意味が入っていいという意見が出ました。

外国語版や日本語の表現を分かりやすく

外国にルーツを持つとか難しい言葉があるので、わかりやすくして宣言自体を子ども向けで優しい日本語版をつくるのと、やさしい外国語版も作っていただけるといいという意見が出ました。

自分でもできる自己肯定感の表現は自分を低く見ている

「自分でもできるという自己肯定感」という文章で、自分をちょっと低く見ているのではないかという意見がありました。

「大人や社会に対する信頼」は適切なのか？

「大人や社会に対する信頼」という文では、若者は大人からの信頼が欲しいのではないかという文脈での表現で、それは適切な言葉なのかという意見が出ました。

ワークショップ・アンケートの内容を宣言に反映させる

アンケートやワークショップの内容がどれだけ反映されているかっていうのが分かりにくいと感じたという意見が出ました。どれだけ反映されているのかというような疑問も出ました。

理念を目立たせる

理念の「すべての子ども若者が…」っていうところから理念というのが一番大切なのでもう少し目立たせる必要がある「自らの思いを表現し、参加する、参加することができるまちを目指します。」というような部分は残していくのがいいのではないかという意見がありました。

具体的な表現について（指針・前文の高校生に限定している）

指針のところでは協議会のメンバーの若者の3割以上が変わった時などにやりにくくなってしまうのではないかと。前文のところでも高校生のまちづくりへの参画とか高校生に限定していて、高校生に限定していいのかという議論になりました。

2校の高校のみ強調されている

前文の市内の高校と締結した包括的な協定（フレンドシップ協定）に重きを置いていて、2校の学校のところだけ意見を聞くようなことを強調していて、他のところの学校に通う学校の子どもの意見は聞かなくてもいいのかっていうような話が出ました。

前文をスリムにする

全体的にこれ見ていると細かすぎるので、もう少しスリムになるようにすることが必要であるという意見が出ました。

すべてのこども・若者の定義を決める

「すべて」の定義が市民・市内に関わる人なのか、市民のみなのかというのをしっかりと決めていかないといけないという話が出ました。

土肥（アドバイザー）：多くの意見と多様な議論をいただきました。この宣言については、11月に発表する予定なので、9月の終わりまでに市の方に提出しなければなりません。これからは、残り2ヶ月と2回の協議会で詳細を詰めていきます。今日の意見を元にして、事務局で整理を進めていきます。時間が来てしまったため、すべての意見を述べきれなかったかもしれません。もし可能でしたら、後ほどメールなどで事務局に意見を送っていただければ、参考になります。皆さんお忙しいと思いますので、今後は月に一回程度のペースでの会合となるかもしれませんが、事務局からもメール等で意見を伺う場を設けることが考えられます。引き続きご協力いただけると嬉しいです。どうぞよろしく願いいたします。

笠原（事務局）：本日の意見を聞いて、根本的な決定が必要なのは、宣言を誰がするか、市民なのか行政なのか、ということだと感じました。市が宣言すると予め決めつけて硬い文章になってしまいましたが、最初にこの点を明確にし、今後は皆さんと合意を取りながら進める必要があると思います。また、前文をもう少し簡潔にするという意見もありましたので、それを反映させていきます。

また、2校の連携に関しては、高校生のまちづくり参画の最初のきっかけが2校の連携協定だったという部分を強調したいという思いから、そのような表現になりました。しかし、市外から来ている高校生や市外に通っている高校生など、市民も含めて様々な立場の方がいることを考慮して修正を加えたいと考えております。

指針に関しては、具体的に内容を示す意図は、宣言した以上は実現していく責任があるという意識から、意図的に数字を入れました。この部分については皆さんの意見を取り入れながら再度指針を作り直していきます。

皆さんから多くのご意見をいただいたことで、これが新たなスタートだと感じています。次回は宣言の内容を具体的に固めていきたいと考えています。皆さんの意見を元にこの宣言を共同で作上げていく気持ちでありますので、引き続きご協力をお願いいたします。以上で、第2回子ども若者参画協議会を終了いたします。ご参加いただきありがとうございました。

【協議会様子】

